

知性と人間性を育む ことばと文化



「声に出して読みたい日本語」「国家の品格」など、日本語や日本文化を見直す本が、次々とベストセラーになっています。その反面、若者たちの間では、言葉の乱れが目立ち、日本の伝統的な文化を知らないと言



キャンパスの春



キャンパスの主役は私たち

定するつもりはありません。しかし、品のある言葉が話すことができないことには、危機感を覚えます。

中川 韓国の言葉遣いの基盤には儒教の教えがあります。しかし、儒教の教えが低下し、インターネットで遊び感覚で使われる省略言葉などが普及し、日本と同じように、若者を中心に言葉の乱れが顕著です。それに危機感を覚える人も多く、最近では、就職試験に言葉遣いの試験を取り入れる企業も増えてきていると聞いています。

和田 中国では、台湾経由で日本の若者

う人たちも多くなっているようです。そのよ

うな中で、若者たちが社会へ旅立つ素地を作るための大学の役割として、尚綱大学が大切に行っているのが、言葉や文化などを学ぶ力リキユラム。正しい日本語を習得することはもちろん、英語や中国語、韓国語を学ぶことを通じて、あらためて日本語、日本文化、そして自分自身の本質を見つめ直すことも、その目的のひとつだと考えています。

そこで、言葉の教育に携わる文化言語学部の先生方に、今の若者言葉に対する印象や、尚綱大学が目指すべき日本語教育のあり方を話し合っていました。

外国でも危機感を募らせる 若者たちの言葉の乱れ

國津 最近、大人には理解できない、若者言葉が、全国的に広がっています。若い学生たちに各国の言語を教える先生方は、その現状をどのようにお考えでしょうか。

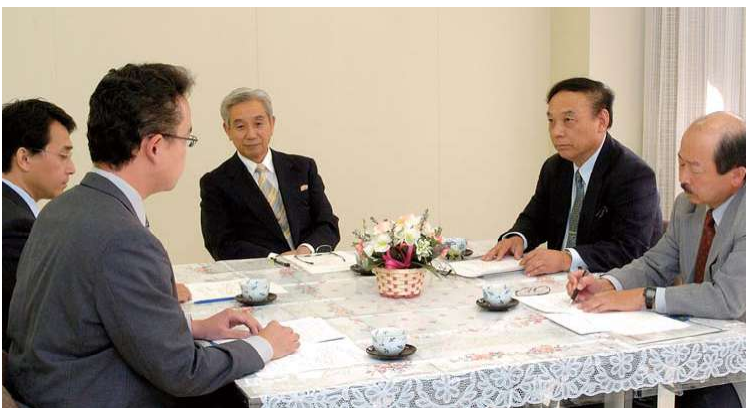
言葉が輸入されていますし、日本などの海外のアニメやゲームなどが人気を集めています。その結果、言葉の乱れも多くなってきました。しかし、敬語の区別は明確ではなく、日本ほど顕著な乱れはありません。

中村 英語には日本語特有の敬語はありません。しかし、その場の雰囲気やレベルに応じて使い分ける単語の層があつく、丁寧な言いまわしもたくさんあります。「今日は」は、例えば、親しい人には「hi」、目上の人には「Hello」と使い分けられます。話す相手によって言葉を使い分ける能力や論理的な発表力は、「アカデミックライティング」、「スピーチ」、「プレゼンテーション」、「ディベート」などの授業で、小学一年生から大学まで一貫した話し言葉の教育によって培われています。これは、言葉の訓練と共に、自分自身の考え方を訓練し、自己を確立することを目的にしています。さ



「話し方論」の授業風景、発声の指導

岩元 最近の日本語ブームの背景には、おかしな日本語や国語力の低下が叫ばれたり、カタカナ語の氾濫が目立ち、もう一度、美しい日本語を見直そうという動きがあるように思います。よく耳にする若者言葉と言えば、ウザイ、キモイ、チョー○○などのように略語ですべてを表現してしまうため、ポキャブラリーも貧困。若者言葉はいつの時代にもあるため、否らに、意見を述べるためには、作文力も身に付けなければなりません。それに比べると、日本では、自分の考えを話したり書いたりする教育が軽視されてきたと言えますね。



座談会「知性と人間性を育むことばと文化」